演題名：脳卒中患者に対する〇〇療法の介入効果の検討

〇〇（演者）1、〇〇（共同演者）1、〇〇（共同演者）2、〇〇（共同演者）3、〇〇（共同演者）1

1)〇〇病院　リハビリテーション科部

2)〇〇病院　看護部

3)〇〇病院　神経内科部

【背景】

脳卒中上肢のリハビリテーション（リハ）として〇〇療法を用いたリハの有効性が報告されている。しかし、〇〇療法の日常生活活動への影響を検討した報告はない。本研究では、〇〇療法の上肢機能および日常生活活動への介入効果を検討することを目的とした。

【方法】

対象は〇年〇月から〇年〇月の間に、当院に入院した脳卒中患者の〇名の内、介入効果の前後比較が可能な〇名（年齢〇±〇歳、男性〇名）とした。入院中は通常のリハに加えて、〇〇療法を1日〇分、週に7回、合計4週間、実施した。解析方法は初回評価時のBrunnstrome-stage(BRS)、Stroke Impairment Assessment Set(SIAS)の運動項目とFunctional independence measure(FIM)、最終評価時のBRS、SIAS、FIMを比較した（統計解析は〇〇検定を使用、有意水準５%とした）。

【倫理的配慮】

本研究は〇〇の倫理審査委員会の承認を得て、実施した（〇〇-〇〇）。

【結果】

初回評価時から最終評価時でBRSは〇から〇（p=　　）、SIASの運動項目は〇から〇に改善を認めた（p=　　）。FIMの〇〇動作は〇±〇点から〇±〇点（p=　　）、〇〇動作が〇±〇点から〇±〇点（p=　　）に改善を認めた。

【考察】

〇〇療法を用いた介入は〇〇といわれている。また、リハの提供時間の増加が機能改善に寄与するとされており、1日〇分、週に7回のリハ提供時間を確保できたことでBRS、SIASの運動項目、FIMの〇〇動作、〇〇動作、〇〇動作の改善に寄与したと考える。